

## 「最新名古屋地盤図」の改訂・追補版について

About Revision and Enlargement of Geotechnical Data Book of Subsoil in Nagoya (New edition, 1988)

大 東 憲 二 (だいたう けんじ)

「最新名古屋地盤図」改定委員会委員長 大同工業大学教授

### 1. はじめに

地盤工学会（旧土質工学会）中部支部が関与した地盤資料集は、名古屋市内およびその近郊の地盤資料をまとめた1969年発行の「名古屋地盤図」、名古屋市域東西・南北20断面の地質断面図をまとめた1987年発行の「名古屋地域地質断面図集」、名古屋市域およびその周辺の地盤情報（約4200本ボーリング柱状図を含む）をまとめた1988年発行の「最新名古屋地盤図」、その「最新名古屋地盤図」資料編の掲載データをデータベース化した1990年発行の「最新名古屋地盤図資料編データベース」、書籍の「最新名古屋地盤図」をデジタル化した「最新名古屋地盤図 CD-ROM 版」である。特に、「最新名古屋地盤図」作成においては、約12000本のボーリング調査報告書を収集し、中部地質調査業協会と地質の専門家の協力を得て、信頼度が高いと思われるボーリングデータのみを選別して掲載した。

現在、地盤工学会中部支部では、2007年の支部設立50周年を記念して、「最新名古屋地盤図」の改訂・追補を行い、2009年度内にデジタル化して公開するために委員会を設置して活動している。

### 2. 「最新名古屋地盤図」追補版の特徴

今回の改訂は、全面改定ではなく、「最新名古屋地盤図」のデータの追加と検討項目の追加に留め、「最新名古屋地盤図」追補版とした。

2006年度に改訂委員会が発足して以来、名古屋市の地盤環境情報システムに収録されているボーリングデータを精査し、「最新名古屋地盤図」の125mメッシュの空白部分を埋める427本のボーリングデータを抽出した。今回の「最新名古屋地盤図」追補版においては、ボーリングデータはデジタル化してCDに収め、しかもボーリング位置はピンポイント表示にすることとした。また、追補版の解説書も作成し出版することとした。

今後、名古屋市域だけでなく中部支部地域で収集される地盤情報が、精査された後に系統的にデータベースに追加され、それらを、適宜、公開できるようにするシステムの開発が遅れていることから、「最新名古屋地盤図」追補版の完成も遅れているが、完成を目指して努力を続けている。

### 「最新名古屋地盤図」追補版・解説編の目次

#### 第1章 概論

- 1.1 追補版発刊の意義
- 1.2 追補版の構成と特徴
- 1.3 地盤データの収集と掲載データ
- 1.4 地盤情報集積における今後の方向性

#### 第2章 名古屋地盤の地質構成

- 2.1 濃尾平野の地盤形成史
- 2.2 濃尾平野・名古屋市域を構成する地層構成
- 2.3 名古屋市域の地形および地質構成

#### 第3章 名古屋地盤の土質工学的性質

- 3.1 名古屋市域の土質工学的性質
- 3.2 土の物理的性質
- 3.3 土の力学的性質

#### 第4章 名古屋地盤の地下水

- 4.1 濃尾平野の地下水利用
- 4.2 広域地盤沈下
- 4.3 地下水規制
- 4.4 名古屋市における地下水状況

#### 第5章 基礎構造物から見た名古屋地盤

- 5.1 基礎構造物と支持力
- 5.2 名古屋駅前の超高層ビルの基礎

#### 第6章 名古屋地盤の動的特性

- 6.1 地盤の振動特性
- 6.2 名古屋市域浅部地盤の動的特性
- 6.3 愛知県内における深部地盤の動的特性
- 6.4 地盤構造と振動特性

#### 第7章 名古屋地盤の災害

- 7.1 名古屋市における災害の変遷と特徴
- 7.2 地震災害
- 7.3 水災害
- 7.4 斜面災害
- 7.5 地盤沈下
- 7.6 地盤の液状化
- 7.7 災害防止に関する規制

#### 第8章 名古屋における土壌汚染

- 8.1 土壌汚染の現状
- 8.2 土壌汚染対策法
- 8.3 土壌汚染の要因となる物質
- 8.4 土壌汚染に係わる基準値
- 8.5 土壌汚染に関する調査手法
- 8.6 自然由来の環境基準超過

#### 第9章 設計・施工のための地盤調査

- 9.1 地盤調査計画
- 9.2 地盤調査計画例

(原稿受理 2009.4.6)